

# AMDA 災害備え協定

## 看護師派遣で 県協会と連携

近い将来の発生が予想される南海トラフ巨大地震に備え、国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市北区伊福町）と県看護協会（同兵団）は5日、被災者支援の連携協定を結んだ。

AMDAが同地震の発生時に支援する協定

を徳島、高知県の計5所での活動を想定している。協会

は看護師を派遣し、けが人の手当てや心のケア、高齢者の介助など

調印式に臨む  
宮田会長（左から2人目）



に取り組む。AMDAが連携を打診していた。

調印式が岡山市北区兵団の県看護会館であり、AMDAグループの菅波茂代表と協会の宮田明美会長が協定書に署名した。菅波代表は「看護協会と共に迅速な被災者支援を図りたい」、宮田会長は「互いの力を発揮して社会に貢献したい」と述べた。

県看護協会は県や岡山市など他の4団体とも大規模災害時の支援活動で連携する協定を結んでいる。（宮原彩）

## 支援や人材育成 和気町と4項目

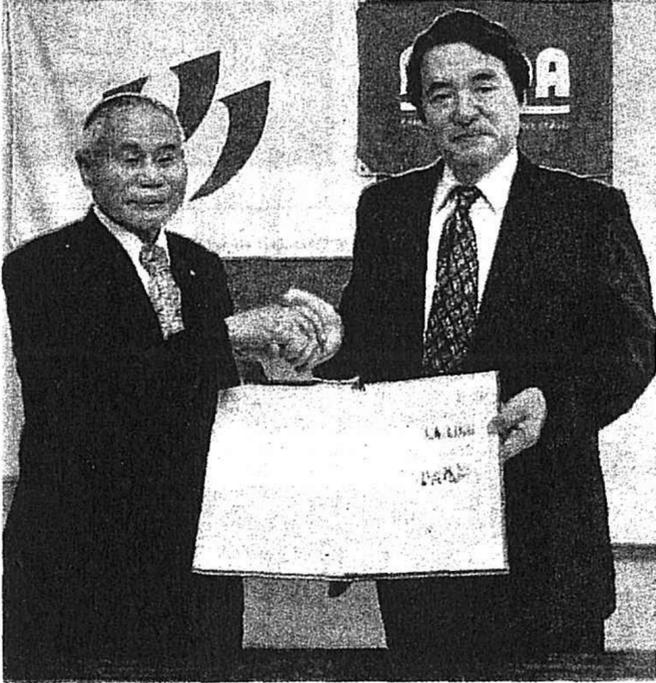
AMDAと和気町は4日、地震など県内外で大規模災害が発生した場合、被災地支援で連携する協定を結んだ。

協定書では、被災地への人材派遣や物資提供といった災害支援活動、人材育成など4項目に関して相互協力することを明記。人材育成ではAMDAが講座を開き、町職員や市民の防災意識向上を図る

ことなどを想定しているという。

町役場で調印式があり、大森直徳町長とAMDAグループの菅波茂代表が協定書に署名、押印。大森町長は「災害支援や人材育成などあらゆる面で協定を生かしたい」と述べ、菅波代表は「和気町と二人三脚で活動できることを力強く思う」と話した。

## 和気町・AMDA連携協定調



協定書を手に握手する大森町長（左）と菅波代表

AMDAと自治体による同様の協定は備前、総社市などに続き12件目。（岸俊行）